



うまはでトライ!

ラグビータウンプロジェクト推進係 75-3343



■ラグビータウンプロジェクトとは

市とプロラグビーチーム「ルリー口福岡」が連携し、ラグビーを通じて地域のにぎわいづくりや人材育成、交流促進を進める取組です。選手と、地域や企業などをつなぎ、スポーツによる地域活性化を目指しています。

今回は、リーグワン参入2年目のシーズンを終えたルリー口福岡の豊田将万ヘッドコーチに、今期の振り返りや、地域とともに歩むチームとしての想いをお聞きしました。

■「地域に合った形」をつくれたリーグワン2年目のシーズン

昨シーズンは参入初年度ということもあり、すべてが手探りの状態でした。しかし今シーズンは、このチームや地域に合った準備の仕方を少しずつ形にでき、それが「5勝2分8敗(昨季は3勝12敗)」という結果に繋がったと感じています。敗戦のなかでも「何が足りなくて、どうすれば勝てたのか」を選手自身が理解できるようになったことは、昨年からの大きな進歩です。選手同士が切磋琢磨し、互いに成長できる環境が整ってきました。

■"地域クラブ"だからこその難しさと強み

ルリー口福岡は、単一の企業が所有する実業団チームではなく、筑後地域約50社の地元企業に選手たちが勤務し、地域全体で支えられているクラブチームです。日中はそれぞれ違う仕事に就き、夜に集まって練習しているので、限られた時間の中でどれだけ質の高い練習ができるかを大事にしています。ただ、その環境は難しさだけでなく、強みにもなっています。選手同士が「どんな仕事をしているんだろう」と互いに関心を持ちながら関係を築いていて、それがチームの一体感につながっていると感じます。

■地域との距離が近づいたシーズン

今シーズンは、公開練習や地域イベントなどを通して、地域とのつながりが一層深くなったと感じています。試合の日だけではなく、普段から選手やチームを身近に感じてもらえることは、チームとしてすごく大切だと思っています。イベントなどに参加する中で、「地域の誰かの役に立てる存在でありたい」という思いも、選手たちの中で強くなってきているのではないのでしょうか。

■自治体応援デーと来シーズンへの想い

今シーズンから「自治体応援デー」という取組も始まりました。これは、ルリー口福岡と連携協定を結んでいる筑後地域の14自治体が主役となって、それぞれの地域の魅力をPRする試合です。自治体ごとに会場の雰囲気や特色も違って、選手たちも地域に応援されていることを実感できたと思います。

来シーズンは、今年あと一歩で勝ち切れなかった試合をしっかりと勝てるチームになっていきたいです。そして、「ルリー口福岡が地域にあってよかった」と思っていただけの存在を目指して、これからも地域の皆さんと一緒に成長してまいります。



▲円陣を組む豊田将万ヘッドコーチ



▲自治体応援デーの様子

ルリー口福岡 公開練習のお知らせ



地域の皆さまにチームをより身近に感じていただけるよう、公開練習を実施します。

ぜひ会場で、選手たちの熱い練習風景をご覧ください。

■開催日 7月14日(火)、24日(金)、28日(火)
8月4日(火)

■時間 各回 18時45分～19時45分頃

■場所 吉井体育センターグラウンド

※小雨決行、荒天中止

※中止の場合は、ルリー口福岡公式SNSでお知らせします。



ルリー口福岡公式Instagramはこちら▶

LERIRO_FUKUOKA